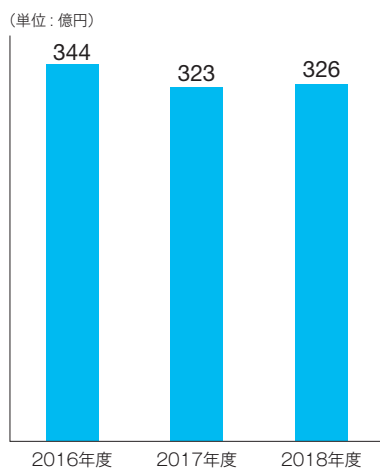


2018年度決算について

損益の状況

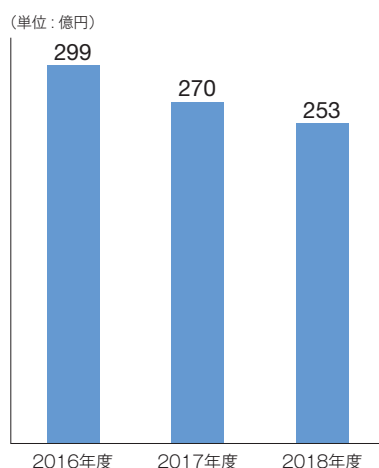
コア業務純益

326億円
(前年比 +3億円)



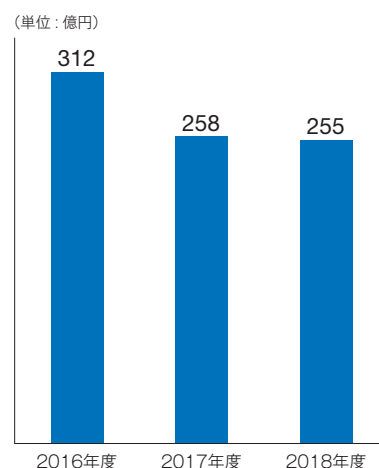
当期純利益

253億円
(前年比 △17億円)



親会社株主に帰属する当期純利益

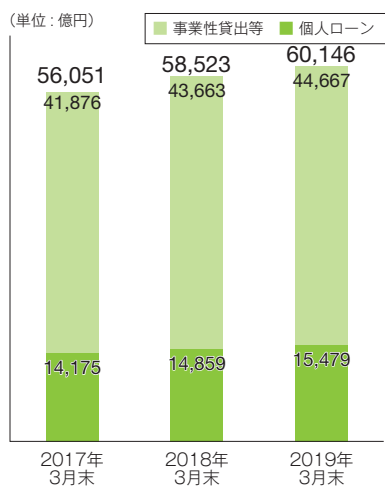
255億円
(前年比 △3億円)



貸出金の状況

貸出金残高

60,146億円
(2018年3月末比 +1,623億円)



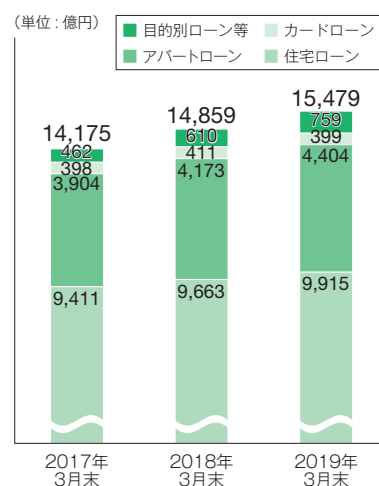
中小企業向け貸出金残高

25,169億円
(2018年3月末比 +906億円)



個人ローン残高

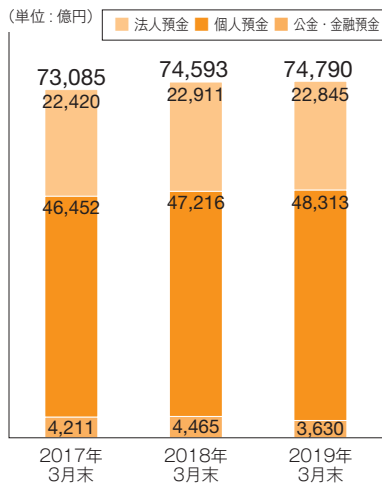
15,479億円
(2018年3月末比 +620億円)



預金等の状況

預金等残高

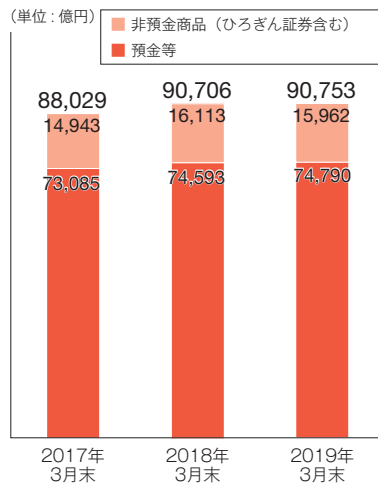
74,790億円
(2018年3月末比 +197億円)



※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。

総預り資産残高 (ひろぎん証券含む)

90,753億円
(2018年3月末比 +47億円)



※ ひろぎん証券の非預金商品残高は、時価ベースです。

用語解説

コア業務純益

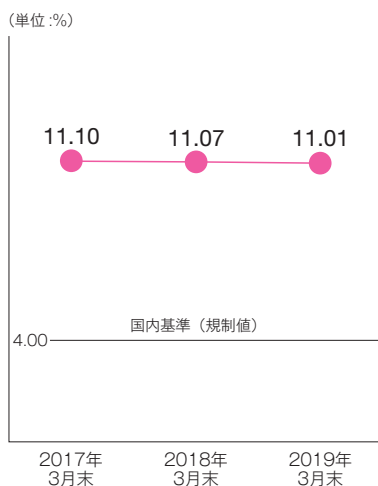
一般企業の「営業利益」に近い「業務純益」から特殊要因で変動する「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券関係損益」の影響を除いたものであり、より実質的な銀行本来の業務による収益力を表しております。

「コア業務純益」＝「業務純益」＋「一般貸倒引当金繰入額」－「国債等債券関係損益」

自己資本比率の状況

連結自己資本比率

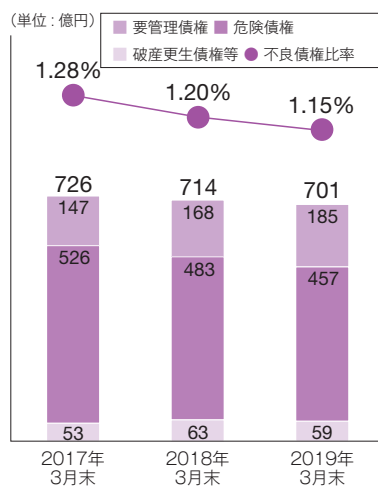
11.01%
(2018年3月末比 △0.06ポイント)



金融再生法開示債権額の状況

不良債権比率

1.15%
(2018年3月末比 △0.05ポイント)



※ 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しています。

自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、経営の健全性・安全性を表す重要な指標です。国内基準対象行には4%以上であることが義務づけられております。

不良債権比率

金融再生法に基づく「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計額の、銀行の与信額全体（破産更生債権及びこれらに準ずる債権、「危険債権」、「要管理債権」に「正常債権」を加えたもの）に占める割合として表されます。